

**令和6年度 日本大学経済学部 総合型選抜
論文・プレゼンテーションによる選考 第1次選考 小論文課題**

日本大学経済学部

以下の課題について、募集要項（日本大学経済学部ホームページよりダウンロードしてください）に含まれる指定用紙を使い、2,700字以上3,000字以内で小論文を書きなさい。ただし、図表や参考文献リストなどは文字数には含みません。

【課題】

近年の経済学で注目される研究分野のひとつに「行動経済学」があります。行動経済学では、心理学や脳科学の知見を経済学に取り入れて、人々の意思決定がどのような特徴を持っているかを分析し、それが経済活動にどのような影響を及ぼすのかを研究します。例えば、人々は同じ価値の利得よりも損失を回避することを選択する傾向があります。これは損失回避バイアスと呼ばれています。このような行動経済学の知見は、国や地方自治体の政策効果や企業の広告効果を高めるために応用されています^(注1)。

東京都八王子市では行動経済学の知見を応用した実験が行われました。大腸がんの発見には、毎年くり返し検診を受診することが必要です。そこで八王子市は、前年度の検診受診者に対して「今年度、検診を受ければ来年度も検査キットを送ります」という利得を強調したメッセージと「今年度、検診を受けなければ来年度は検査キットを送ることができません」という損失を強調したメッセージの2種類の文書を送りました。その結果、損失を強調したメッセージを送ったグループの方が受診率は高くなりました^(注2)。

こうした行動経済学の知見を、あなたの身近にある課題の解決のために応用してみましょう。まず、行動経済学に関する下記の基本文献をよく読み、人々の行動の特徴について理解を深めてください。そして、あなたの身近な事柄について検討し、課題を特定した上で行動経済学の理論を応用して解決方法を提案してください。

なお、解決方法を検討する際には、あなた自身が実施した調査（直接の訪問、電話やメール、オンラインによるインタビューやアンケート）を用いてください。

基本文献

大竹文雄『行動経済学の使い方』岩波書店、2019年

^(注1) 行動経済学会「行動経済学会ベストナッジ賞」

(<http://www.abef.jp/prize/bestnudge/>：閲覧日 2023年5月18日)

^(注2) 厚生労働省『受診率向上施策ハンドブック（第2版）』9ページ（一部改変）

(<https://www.mhlw.go.jp/content/10901000/000500406.pdf>：閲覧日 2023年5月18日)

<利用した参考文献リストなどの情報は添付>

- ・実地調査・インタビュー・アンケートについては、調査した相手（公開に同意した場合）、実施した年月日、手段を明記し、その一覧を別紙に示してください。公開の承諾が得られなかった場合にはその旨を記載し、A社などとしてください。
- ・インターネットや書籍などを用いた場合は、URLや文献情報（著者名、書名、発行所、発行年、ページ数）を明記し、利用したデータの出所も明らかにしてください。
- ・URL・文献・データ等の情報、ならびに図表は、別紙（A4用紙両面5枚以内）にまとめて添付してください。

<利用した参考文献などの記載例>

実地調査・インタビュー・アンケートの場合：日大市，広報担当，日大ケイ太，2023年7月28日

インターネットの場合：日本大学経済学部 (<https://www.eco.nihon-u.ac.jp>：閲覧日 2023年8月4日)

書籍の場合：日大ケイ子『詳説日大経済』神田三崎町出版，2020年，25-34ページ

新聞の場合：『日大経済新聞』朝刊，2023年4月8日3面

データの場合：総務省「労働力調査」，2022年

**令和6年度 日本大学経済学部 総合型選抜
資格取得者を対象とした論文による選考 第一次選考 小論文A課題**

日本大学経済学部

以下の課題について、募集要項（日本大学経済学部ホームページよりダウンロードしてください）に含まれる指定用紙を使い、1,350字以上1,500字以内で小論文を書きなさい。ただし、図表や参考文献リストなどは文字数には含みません。

【課題】

総務省統計局「労働力調査」によれば、我が国における60歳以上の高年齢雇用者の数と雇用者全体に占めるその割合は、2002年には513万人と9.6%でしたが、2021年には1000万人と18.3%となり、過去20年間で顕著な増加傾向にあります。高年齢雇用者が増加する背景にはどのような要因があるかを、政府、企業、および高年齢者それぞれの立場から論じてください。

また、労働政策研究・研修機構（2020年）の調査によると、60代の就業していない高年齢者のうち、男性の約3人に1人、女性の約4人に1人は仕事をしたいと思いながら仕事に就けない状況にあります。今後、60代の高年齢者の就労を促すうえで、政府と企業はそれぞれどのような取り組みが出来るのかについても論じてください。

論述のヒントとして、以下に示す参考文献や官公庁によるレポートなど、複数の資料をあわせて読むことを薦めます。

[参考文献]

1. 坂本貴志『統計で考える働き方の未来－高齢者が働き続ける国へ』ちくま新書、2020年
2. 労働政策研究・研修機構「60代の雇用・生活調査」『JILPT調査シリーズ』No.199、2020年
(<https://www.jil.go.jp/institute/research/2020/documents/0199.pdf>: 閲覧日 2023年5月15日)

<利用した参考文献リストなどの情報は添付>

- ・インターネットや書籍などを用いた場合は、URLや文献情報（著者名、書名、発行所、発行年、ページ数）を明記し、利用したデータの出所も明らかにしてください。
- ・URL・文献・データ等の情報、ならびに図表は、別紙（A4版用紙両面5枚以内）にまとめて添付してください。

<利用した参考文献などの記載例>

- ・インターネットの場合：日本大学経済学部 (<https://www.eco.nihon-u.ac.jp> : 閲覧日 2023年8月1日)
- ・書籍の場合：日大ケイ子『詳説 日大経済』神田三崎町出版、2020年、7-13ページ
- ・新聞の場合：『日大経済新聞』朝刊、2021年10月15日2面
- ・データの場合：総務省「労働力調査」、2021年

令和6年度 総合型選抜〈資格取得型〉小論文B 問題用紙

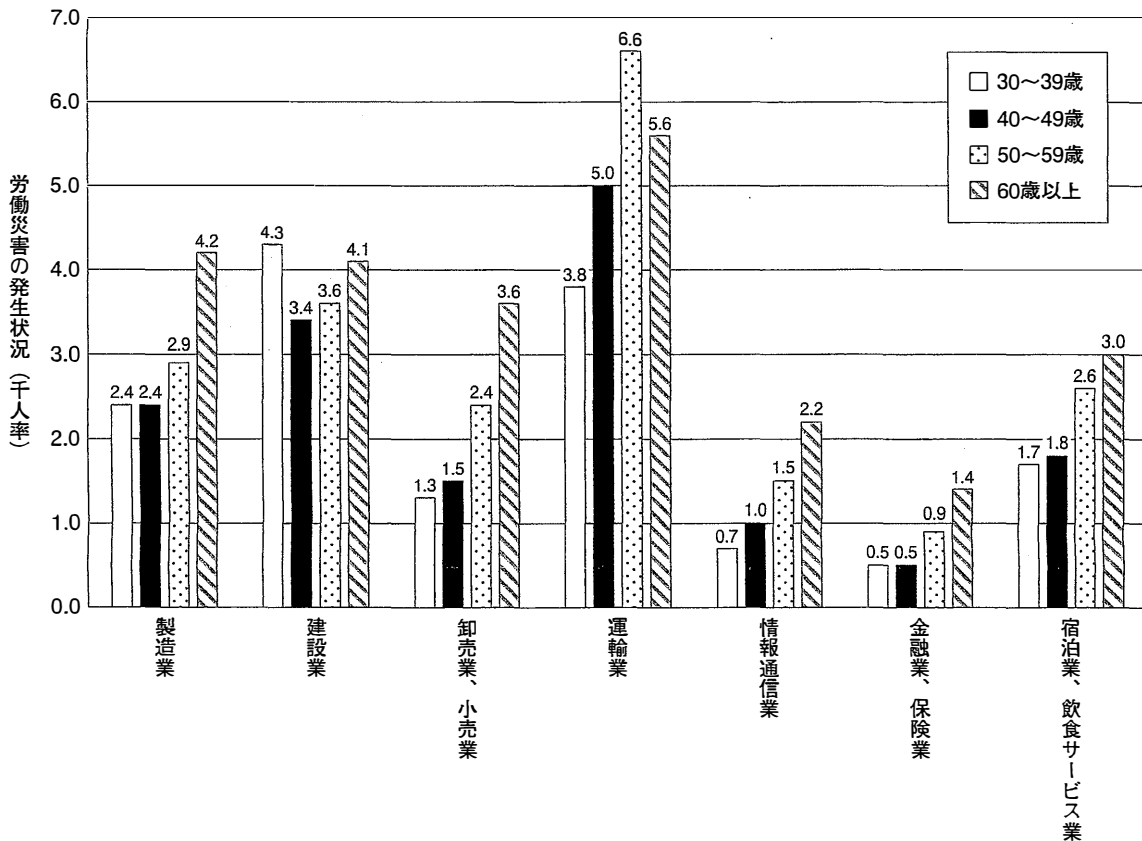
志望 学科	経済学科	受験番号	ふりがな	試験科目
	産業経営学科 金融公共経済学科		氏名	

志望学科を○で囲みなさい。

問：図1には、令和3年における、年齢区分および産業別にみた労働災害の発生状況（千人率）が示されています。図2には、高年齢者を中途採用した企業の割合が、それぞれ産業別に示されています。図3には、令和3年における、年齢区分および経験期間別にみた労働災害の発生状況（千人率）が示されています。以下の（1）と（2）について、（1）は300字以上350字以内、（2）は400字以上500字以内で論述してください。

- (1) 高年齢雇用の労働災害の発生状況とその要因について、図1と図2から読み解けることを論じてください。
- (2) 小論文Aでは、「60代の高年齢者の就労を促すうえでの国と企業の取り組み」について論述してもらいました。ここでは、高年齢者が仕事に就いた後、より健全で長く働き続けるために、政府にはどのような対策が求められ、また企業には労務管理上どのような支援・工夫が必要とされるのかを論述してください。（1）で図1と図2から読み解いた内容と図3を踏まえて論述すること。

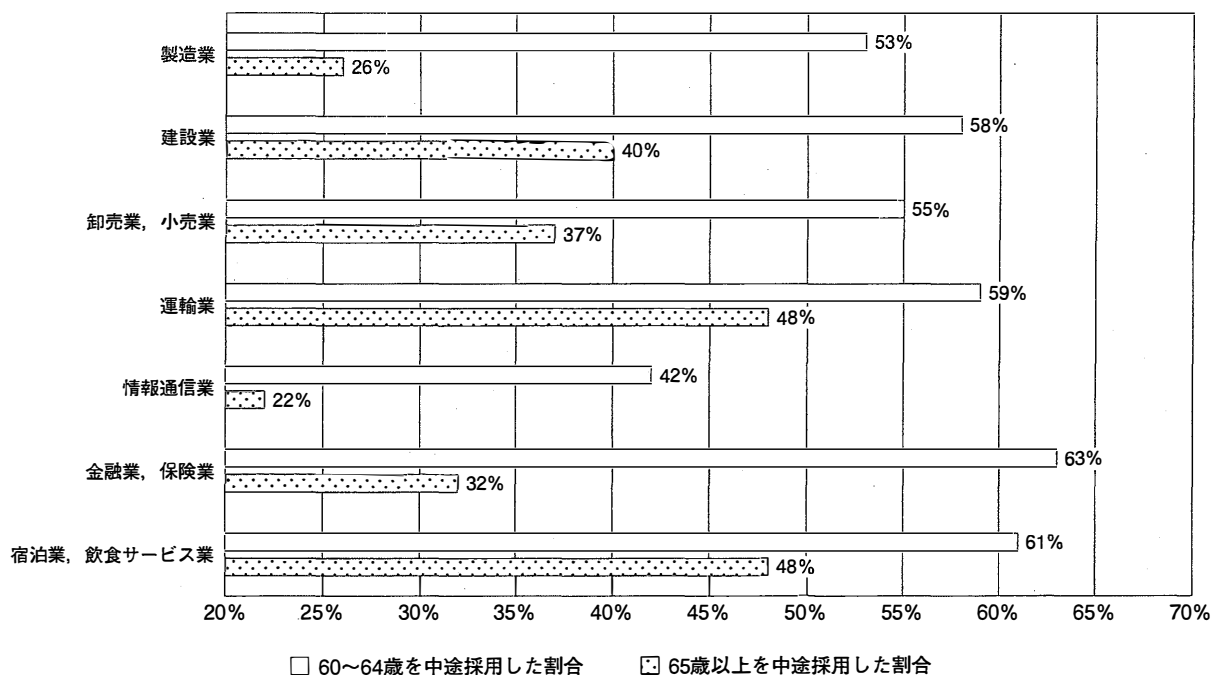
図1. 年齢区分および産業別にみる労働災害の発生状況（千人率）



注：労働災害とは、休業4日以上を要する業務遂行中の死傷事故です。千人率とは、1年間の雇用者1000人当たりが発生した死傷者数の割合を示します。

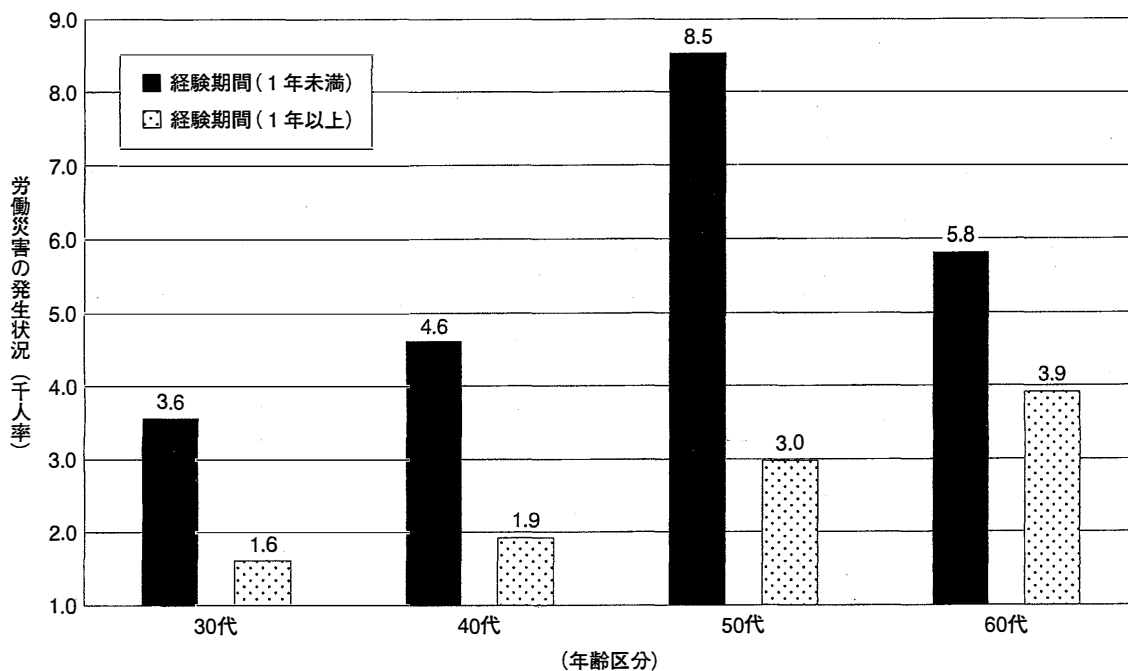
出所：総務省統計局『労働力調査基本集計』および厚生労働省『労働者死傷病報告による死傷災害発生状況』を基に作成。

図2. 産業別にみる60～64歳および65歳以上の中途採用状況



注：図の数値は、平成30年に55歳以上の者を中途採用した企業のうち、60～64歳および65歳以上の高齢者を中途採用した割合を示しています。
 出所：労働政策研究・研修機構『高齢者の雇用に関する調査(企業調査)』を基に作成。

図3. 年齢区分と経験期間別にみた労働災害の発生状況（千人率）



出所：厚生労働省「令和3年 高齢労働者の労働災害発生状況」(<https://www.mhlw.go.jp/content/11302000/000943973.pdf> : 確認日2023年9月2日)に掲載された「高齢労働者の労働災害の特徴③ 年齢と経験期間の影響・休業見込み期間」の数値を引用して作成。

[表面より続く]
(2)

